

令和5年度 第1回

川合市長と語り合うタウンミーティング

～地域連携若手交流会（川越エリア）～



日時：令和5年7月10日（月）

午後3時30分～午後5時00分

場所：埼玉県信用金庫川越支店 2階大会議室

参加者

地域連携若手交流会（川越エリア） 39名

出席者

市長、宮本副市長、秘書広報監、総合政策部長、市民部長、こども未来部長、産業観光部長、都市計画部長、学校教育部長

意見数

分類	件数	内容	頁
子ども・子育て	1	・ プレーパークの設置	
教育・文化・スポーツ	1	・ 小中学生に向けた金融教育の実施	
都市基盤・生活基盤	1	・ 古民家再生による活用	
産業・観光	4	・ 小江戸グルメフェスの開催 ・ 観光客向け情報発信アプリの開発 ・ 川越版「さやビズ」の開設 ・ 遊休農地の有効活用	
住民自治・行財政運営	1	・ SNSを活用した川越市の情報発信	
計	8		

意見交換（要約）

《プレーパークの設置》

意見

現在公園でボール遊びが禁止されるなど、子供たちがのびのびと遊べる環境が減っていると感じております。

少子高齢化で人口減が今後予想されていく中で、川越市が、子育てしやすい街、子供たちがのびのびと遊べる環境のある街というイメージがつくことで、川越市の今後のさらなる発展にも繋がると考えました。

今回議題に挙げたプレーパークは、ボール遊びや、子供たちが自由に何か作る工作、キャンプファイヤーなど、子供たちが考えて自由に遊ぶことができるもので、そういった点が公園との違いになっていると考えております。

また、子供たちが遊ぶ場としてだけでなく、子育てに関する悩みや意見交換のできる、子供たちの親同士の交流の場も提供できればと思っております。

ドッジボール大会など親子が参加できるようなイベントを開催することで、親子揃って交流を図るといような環境にもなっております。

空き地の利用を考えておりますが、活用できる空き地がない、スペースを作る費用がかかるというような懸念点に関しましては、既存の公園を週末の日曜日だけ、または特定の日を定めて、プレーパークにするなどの代替案も考えました。

市長

プレーパークについては、市議会議員の方からも一般質問という形で川越市でも作ってはどうかということをご提案いただいております。

川越市は公園の面積が少ない場所でございますが、いろいろ課題はあるのですが、これまでやってきたプレーパークの試みとしては、こどもの城を臨時的なプレーパークとして開催するというようなことをやってきました。

今後の見通しとしては、新宿町の元県の地方庁舎跡地、そこを市が買い取り、防災公園として整備する方向で進んでいるのですが、その防災公園の中に一部プレーパーク的な要素も入れ込むというようなことも検討をしております。

このプレーパークというのは、子供たちや子育て世代にとってプラスの施設でございますので、前向きに検討を進めていきたいと考えております。

こども未来部長

昨年度3月27日、こどもの城の一角、庭の広場でプレーパークを行いました。

午前の部、午後の部と分かれまして、付近の川越小、今成小、月越小の子供達、それから園児、保護者の方など52名が集まり、工作や鬼ごっこ、綱引き、昔の遊びなどを行いました。最近では子供の声を嫌がるというような傾向も一部には報道等がございますが、この周辺の方々は非常に理解があるということもありますので、プレーパークを定着させていくには、周辺のご理解をいただくということも大変重要と考えております。

都市計画部長

公園を特定の日にプレーパークとして活用することにつきましては、公園は誰でもご利用いただけるようにいくつかのルールは設定させざるを得ないと思っております。そういった中で、特にキャンプファイヤーとなりますとハードルが高いというのが現実にはありますが、例えばボール遊びや工作も、一律にどのようなボール遊びも禁じているのではなくて、社会通念上、公園の広さとそこにいる人数といったことも踏まえ、常識的に考えて他の周りの方に迷惑にならないような遊び方であれば、基本的には禁じているというものではございません。

また、比較的大きな公園であれば、事前に申し出をいただいて活動をしていただくこともできますので、主催者の責任のもと、イベントを企画していただくこともできるかと思っております。

また、そのような意味で、今後整備を予定している新宿町の防災広場につきましては、1.2haという広さがありますので、比較的そういった活動はしやすい公園になるかと思っておりますし、そのような方向での整備をしていきたいと思っております。

また、公園だけではなく、川越市内の駅前通りや商店街で最近個人的に注目しているのは、角栄商店街などで、時々商店街や地域の方の主催で様々なイベントが企画されておまして、子供商店街や、子供だけではなく高齢者と一緒にパラスポーツをやるといったようなイベントも企画されております。

商店街の方が主催していただくことによって、持続可能なイベントにもなっていくと思っておりますし、地域のにぎわいの創出といった中で地域コミュニティが形成されていく多面的な効果を持つと思っております。

我々市が関わる中でも、新河岸駅では駅周辺のにぎわい創出ということで新河岸駅わくわくフェスティバルを開催しており、現状では市が関わりながら行っておりますが、将来的には地域主体でそのようなイベントが開催されるようにという形で今体制を整えているところでございます。

そういった中で、本日ご参加いただいている経済界の皆様もぜひ関わっていただきながら、地域が必要とするイベントを企画していただきたいと思っておりますし、その上で市が協力できることがありましたら、相談いただければ我々も対応してまいりたいと考えております。

意見

防災広場につきまして、平日や期限などイベントを行う日を決めているのか、常にプレーパークとして子供が遊べるようにするのか、どちらで企画されているのでしょうか。

都市計画部長

基本的に、必ずしもそこでプレーパークをやるということが決まっているわけではありません。ご提案いただいたようなボール遊びや子供が工作をするようなイベントの開催を企画されれば、開催可能な広さがあると考えているところです。

《小江戸グルメフェスの開催》

意見

小江戸グルメフェスの開催ということで、提案が二つあります。一つ目の提案は、既存のイベントの川越産業フェスタ、ファーマーズマーケットにチャレンジショップ事業を、追加いただきたいということでございます。

まず、チャレンジショップとは、商店街や街中の空き店舗を今後創業する予定の方にトライアルで安価で貸し出し等、独立開業を支援していく制度のことです。

創業予定者は、安価な値段で店舗を借りることができるので、お試しでお店の経営が可能で、創業前にお客様の反響やオペレーション、経営ノウハウ等を身に付け、創業をスムーズに行うことができます。市としてはチャレンジショップを行うことで、空き店舗の有効活用、新規起業家の育成、既存店や商店街に刺激を与えることができるというメリットもあります。

実際に川越市でもチャレンジショップは行われておりまして、帽子などのかご

製品を取り扱う店舗や、染色体験や友禅教室を行う事業者が同事業に参加し、その後、川越で創業をされているようです。このチャレンジショップのようなもので、創業前の事業者が既存イベントに参加する機会の提供とサポートをいただきたいということでございます。そして、それをコンテスト形式で実施してはどうでしょうか。

私自身、夢ある創業者の方たちの支援をしたいという思いで業務を行っております。しかし、皆様に融資を実行できるわけではありません。その理由といたしましては、資金の不足や計画の具体性の不足、あと業務経験が足りないことなど挙げられるのですが、大きいものとしては業務経験が足りないということが挙げられます。また、創業前の方から、実際に店舗を持ったことがないので、創業されてからどう経営をするのかが不安という声を多く聞きます。

既存イベントに創業前の事業者が参加できる機会があれば、将来的に創業を考えている方が、お試しで気軽に出店でき、創業の疑似体験ができることで、お客様の声や反響、オペレーションを学び、創業計画にも具体性が出てくると考えております。市としても、創業者を増やすことができると考えています。もし実際開催される際には、コンテスト形式で行うことでお客様の反響が目に見え、事業者のフィードバックにも、意欲向上にも繋がると考えています。もし今後検討される際には、民間金融機関でできること、川越市でできることをすり合わせて考えていきたいと考えております。

二つ目の意見は、地元飲食店が提供した弁当などの販売、販売会の実施ということですが。実際に他の市町村で実施されておりまして、コロナの影響を受けている飲食店事業者の売上支援や地域のお客様への飲食店PRを目的として、現在も好評で行われているようです。今はアフターコロナという背景もあるので、コロナの影響を受けている事業者だけでなく、創業したばかりで認知度が低い事業者や、知る人ぞ知る店舗等が出店できる機会を作りたいと考えています。

売上拡大や認知度向上に限らず、事業承継の譲渡先探しなど幅広い機会を提供する場にできたら、事業者それぞれの悩みを解決できる場になると考えています。

今回のタウンミーティングを通して、我々民間金融機関と行政とで力を合わせることで、夢ある創業予定者や悩みを抱える事業者の支援をしていければ良いなと考えております。

市長

既存イベントに、チャレンジショップをやりたい人に参加してもらおうという、その件については今まで私、考えたこともなかったようなことなので、大変良いご提案であると感じたところであります。

実現するためには、金融機関の皆さんなどとも連携をしながら、イベントに出てもらおう効果や意味が発生するようなやり方でやっていかなければならないと考えておりますので、皆様方との話を調整、検討を進めることを踏まえた上でやっていかなければならないと感じたところであります。

また、地元の飲食店が提供したお弁当の販売会を実施するという点についても、これもなかなか良い発想というか、他の地域でもやっているところがあるというお話でしたけれども、そういうようなところを参考にさせていただきながら検討したいと思います。

産業観光部長

チャレンジショップにつきましては、平成25年から始めて、21件チャレンジした方がいるのですが、そのうち6件が現在経営をやっている状況です。そのような部分では難しい部分もあるし、試験的にやってみた方も中にはいたのかもしれないというところで、産業フェスタなどの単発のイベントで、チャレンジショップということで創業を志す方が出展していただくというような発想、私達にもちょっとなかったもので、これは斬新な意見といいますか、面白いなと思いました。その辺は少し検討してみてもいいかと考えています。

コンテスト形式の話は、B級グルメやスイーツといった形で、何々コンテスト何々選手権みたいな形のイベントとイメージされるのですが、これは全国規模では比較的盛り上がりますが、過去に市内のような狭いエリアの中で企画をしたときに、狭いエリアで順番をつけるのはお店の方々も抵抗を感じる部分もあり、うまくいかなかったというようなことも聞いています。そういったことにも配慮しつつ、今後、チャレンジショップであれば、そういったことも気にせず思い切ってできるということもありますので、その辺いいお考えと感じました。

あと、お弁当ですが、これも市の方で、かつてコロナでなかなか飲食店がというときに、「ときもデリバリー」といってお弁当屋さんをいろいろ紹介するというのをやりました。特に西口のエリアは、業務系のオフィスも多いですし、飲

食店も多いですので、そういった部分でいろいろやってみる価値はあるのだろう
など考えています。

ウエスタ川越が、西口の商店街と協力してウエスタ川越飲食店マップというの
を作っておりますので、そういったところで、エリアで連携を図りながらできる
取り組みなのかなと思いました。

《SNSを活用した川越市の情報発信》

意見

川越には多数の観光地や川越まつり等の観光資源があり、観光客が多く集まる
観光スポットになっていると思います。その川越市の観光地やイベントなどの知
名度をもっと上げることで、観光客を集めることで川越市に活気をもたらすこと
ができるのではないかと考えたことから、私達は広告のツールとしてSNSのさ
らなる活用をするのはどうかと思いました。

具体的な案としては、現在活用しているインスタグラムでのPR動画の作成を
発信したり、T i k T o k等の若年層の利用が多いアプリで1分間弱ぐらいの短
い動画を発信したりすることによって、若年層からの人気を高めることができる
のではないかと考えました。

二つ目に、公式Y o u T u b eチャンネルで、人気Y o u T u b e rやタレン
トとタイアップして動画を配信したりするのはどうかと考えました。

以上2点について実施することで観光客をさらに集め、川越市に活気をもた
らすことができるのではないかと考えました。

市長

私自身にとりましては、個人的にF a c e b o o kはやっているのですが、S
NSを活用するというのは、考えるのが難しい年齢になっておりますので、それ
以外のSNSの手段がどういうものであってどういう効果があるのか、どういう
使い方があるのかにつきましては、担当からお願いします。

秘書広報監

川越市の情報発信につきましては、T w i t t e r（現X）やF a c e b o o
k、L I N EやI n s t a g r a m、Y o u T u b eを使用して市政情報等の発
信を行っているところでございます。

特に観光や市の魅力の情報発信については、T w i t t e r（現X）、F a c e b o o kでのイベントの告知、あとI n s t a g r a m、Y o u T u b eでは写真や動画を活用して、魅力情報のPRをするなど媒体の特性を生かした情報発信に取り組んでいるところでございます。

先ほど一分間のPR動画というご提案がございました。昨年川越市が市制施行100周年を迎えたときに、川越市の魅力を発信するというので、PR動画のコンテストを実施させていただきました。非常に好評で、応募作品が117作品ございました。最優秀賞と優秀賞と特別賞ということで表彰させていただいて、それを昨年12月1日の川越市の式典で動画配信し、PRを行ったという実績もでございます。このPR動画、非常に好評をいただいております、川越市で、コンベンションという大きなイベントをやっただいて、そのイベントの中で、川越で飲食をしていただいて、川越で泊まってもらい、川越市にたくさんお金を落としてもらうという事業も推進しているところでございます。

そのような中で、PR動画の配信をさせていただいて、随時川越市をPRしているところでございます。今後も、より川越市の知名度を上げるよう情報発信を工夫し、SNSを活用してまいりたいと思っておりますので、ぜひご協力お願いいたします。

産業観光部長

観光に関する情報発信につきましては、川越市その他、観光協会、DMO川越、川越商工会議所といった観光に関連する団体がございます。

常日頃連携し様々なことをやらせていただいているのですが、情報発信に関しては、観光協会を中心にやっております。特にI n s t a g r a mに関しては、写真や画像を中心に投稿しており、T w i t t e r（現X）については文字を中心に、毎日ではないのですが、更新している状況で取り組んでおります。

また、川越市には観光親善大使が14人いるのですが、その中で一生懸命やっただいていてる阿里耶さんという方がいて、いろいろなイベント等についてT w i t t e r（現X）等で情報を提供していただいております。

その他、観光親善大使の他に小江戸川越大使として市村正親さんや、三吉彩花さんなどもいるのですが、そのような方も川越の魅力発信ということで貢献していただいているという状況で取り組んでいるところでございます。

意見

先程ウェスタ川越でイベントを行い、宿泊客を増やす等、市としても取り組んでらっしゃるとのことだったのですが、川越市のY o u T u b eやI n s t a g r a m、T w i t t e r（現X）等いろいろ拝見しまして、ちょっと発信が弱いなと思いました。

コロナのときに河野大臣と有名Y o u T u b e rの方がコラボしたとき600万回以上再生されるなど、大きなインパクトがあったと思っております、例えば川越市長に出演いただくなどやっていただきますと、非常にインパクトもあるかと思っておりますが、何かその辺ご協力いただけたりするのでしょうか。

市長

川越市はSNS、色々な種類を使って情報発信しておりますが、発信力が弱いというかインパクトが弱い、そういう傾向があることは否定できないと思います。

そうではなくて、ぜひ大勢の人に関心を持っていただけるような表現や映像、あるいは私自身が顔を出すなどの工夫はしていかなければならないと思っておりますので、ぜひ若い皆さんの感覚で、こうしたらよいということがございましたら、いつでも広報の方にご提案ください。

市の職員の考えでは限界があるので、ぜひSNSを活用されている若い皆さんの、これがインパクトあるというものを教えていただけたら大変ありがたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

秘書広報監

情報発信の関係で、なかなか伝わらないというお話がありましたので、補足説明をさせていただきたいと思えます。

川越の媒体は、市のホームページから入ってくるというのが一般的です。ここで、行政の場合、伝えてはいますが、実際に伝わるというところまでいっていないということは認識しております。

今年度、川越市のシティプロモーション特設サイトの構築を検討しているところでございまして、ホームページに入ってからすぐにカテゴリーが1個入っております。そこをクリックすると、市の公式ホームページとは別サイトの準公式サイトとして運用するものでございます。

今までは市が情報を一方的に伝えるホームページだったのですが、そこでは、企業と市民と観光客がそこに情報を伝えていただいて、その情報を共有するというサイトの構築を検討しているところでございます。

これは、若手の金融機関の職員の方も、実は川越市にお金がないものですから、民間と協定を結んで広告収入で賄うようなサイトの構築を今検討しております。

皆さん、若手の金融に携わっている皆様の情報を、そのサイトに載せていただいて、川越市として一緒になって魅力を発信していただければと思います。

《観光客向け情報発信アプリの開発》

意見

川越市内は蔵造りを中心に、道路がたいへん渋滞しているという状況があります。市営の駐車場が三つしかないという状況で、その距離も大体徒歩で15分かかり、炎天下の日には体力的にも距離的にも問題があると思いました。

観光スポットや飲食店、駐車場の空き状況などがわかる観光客向けの情報発信アプリを開発することによって、おすすめ情報やトータルサービスを提供することが可能であると思えます。また、観光客が車道にはみ出している現状を改善することで歩行者の安全を守ることができ、より良い発展に繋がるのではないかと思います。

市長

観光客向けの情報発信アプリにつきましては、川越まつりの時に川越まつりナビというものを民間で開発してもらって使っているのですが、今どこが渋滞しているというようなことが伝えられるアプリのようなものを作って、観光客の方に活用してもらえれば、より観光客の皆さんの利便性が向上すると思えますので、それは検討を進めさせていただきたいと思えます。

産業観光部長

川越まつりナビは、山車の位置情報、駐車場の空き情報、それからヒートマップとして密集情報を、川越まつりの期間お知らせしているものです。

川越は観光客の皆さんに多数来ていただいている、一番街などは危ない状況がある中で、川越まつりナビを通常でも活用できないかということで、業者さんの方からも提案をいただいております、検討を進めているところです。

ご提案いただいたようにスマートフォンで使うアプリが一番今効果的かと思えますので、そういった形で情報発信ができるとういのはと思います。

現状その他にないかと、ライブカメラなどないか見てみましたところ、観光協会のホームページで、一番街を定点カメラで一分ごとに更新して写している、そういったものもあった状況ですので、色々なものを組み合わせて、できることをやって、安心して観光を楽しんでいただけるような環境作りというのは必要だと思っております。

宮本副市長

今出てきた観光のアプリは、交通とは切っても切り離せないようなところがありまして、20年前位から、駐車場の案内システムや渋滞対策など研究していたところなのですが、その頃はデジタルもそれほど発達しておらず、路上に満車の表示を出すような駐車場の案内などをやっていたのですが、今は駐車場に端末がちょっとあればすぐネットの方に表示したりもできますし、公共の駐車場を案内するというのは、むしろ街中にあるので観光と渋滞対策という意味ではどうかというところもありまして、その辺をうまく外から埋めていくような形でやっていると大変いいかと思えます。

もう一つ、警察の方とも北部市街地の渋滞対策についてはある程度連携していて、デジタル表示で街中が渋滞していますといったものも出しているわけですが、それだけではなく、先ほど出てきたようなアプリなどを今後検討して、アプリでも表示して行って、上手く渋滞に引っかからず、かつ街中を楽しんでいただき、さらにはその中で観光のルールなども見ていただくようなものができればということで、今後検討してやっていければと思います。

意見

今回渋滞対策や、いろんなアプリの対策もご意見いただきまして、元々この話になった経緯としましては、歩行者の方の安全などを考えたいということもありまして、今後、街中をもっと変えていきたい、歩道にカフェやベンチを置いて、ゆっくり滞在できるような空間、歩行者利便増進道路、小道制度とかを導入できたらと考えていたのですが、実際こういったものは考えられているのかどうか、ご意見いただけたらと思います。

市長

特に一番街の観光客の混雑の問題かと思うのですが、一番街の通りについては、平成21年に、それまで約3年間かけて交通方策検討委員会といった、地元の皆さんや警察など関係者の方に集まって協議を進めてきていただいて、交通実験なども行い、結論として北から南への一方通行にしたらいというご提案をいただいたことがあります。実施しようとしたら、一番街の通りが北から南への一方通行になると、当然市役所の脇の東京街道がものすごく混雑するのは見えているということで、混雑が予想される地域の皆さんの反対があり、公安委員会から地元調整するよということになって、実現しなかったという経緯がございます。それ以降、引き続き地元の人たちと協議会のような会議体を作り、渋滞を緩和しつつ、交通、歩行者観光客の安全を確保する方策について、いろんな提案をしてもらったり提案したりということをやってきたのですが、皆さん賛成とはならず、実現しないまま来てしまいました。

ここへきて、交通渋滞を緩和するには1本の道を一方通行にするだけではなく、北部地域全体を一方通行、都内とか京都市などで見られるようなエリア全体の全ての道を一方通行にする手法でやっていくより仕方がないのかなということ、今その検討を始めているところです、

これを実現するには、地域の皆さん方と、かなり広い地域の皆さん方も入れて議論をしつつ、かつ実際に実験的なことをやりつつやらなければならないので、最低数年はかかりますが、その方向で進めようとしているところです。

宮本副市長

本格的にいろいろ関わって検討していかななくてはいけない、地元もあるので、思いきってやってしまってもいいということではなく、市としては県と一緒に北環状線という市を取り巻く環状道路の整備を進めていたり、他の道路の整備を進めたりしながら、なるべく交通負荷が少なくなって、歩行者が安全であるようなことを、できることから検討しているということで、少し時間はかかっていますが、地道に進めているというところでご理解いただければと思います。

ただ、知っていても知らなくても、いろいろとあれはこうなるのかならないのかというのを、考えることはとてもいいことだと思いますので、考えたことをいろいろ言っていて、一つでも前に進むことができればと思っています。

都市計画部長

一番街というのは、観光客の方のためだけの道ではなく、そこに住んでいる方にとっても、生活交通として重要な道路であるというところが大変重要なのかと思っております。

観光客の方にとっても歩きやすく、生活される方にとっても利便性を損なわないような、そういった交通のあり方というのを、地域の皆様とともに考えていく必要があるかと思っております。

交通ルールだけではなく、渋滞情報などを適切に提供することで、車でお越しになる観光客の方が、そこは避けたほうがいいのかと思えるような情報を発信していくことも大事であると思えますし、生活交通という形で適切に車を流していくためには、観光客の方のマナーも必要と思っております。今、市ではそのようなことをパッケージで、いろいろな策を講じているところで、地道に一步一步改善をしていければよいのではないかと思っております。

《川越版「さやビズ」の開設》

意見

川越版のさやビズの創設を提案させていただきます。そもそもさやビズとは、ということですが、市が予算を出し、中小企業診断資格などを有するセンター長と、専門的な知識・知見を持つアドバイザーを複数名確保し、無料で市内の事業者に対して経営相談を行うといった、公的な経営相談窓口というものになります。近いところだと、今全国で展開しているよろず支援拠点というものが類似されるサービスとしてイメージしていただければと思います。

今回提案させていただいた経緯が、一件の借入相談がきっかけでした。川越市在住のお客様から借り入れに係るご相談を受ける中で、新規事業を計画されていたのですが、コンセプトの部分で少しブラッシュアップの必要性を感じたというところもあり、早速私どもの方から埼玉県よろず支援拠点に相談を行いました。

しかし、お客様のニーズに合うアドバイザーを指定したものの1ヶ月待つて欲しいという返答があり、お客様は相談窓口へ直接訪問をご希望だったのですが、場所が大宮というところでなかなかお客様のご負担が大きく、よろず支援拠点への相談は断念しました。

商工会議所等への所属もしておらず、ゼロベースでも相談できる先がないかと探していた中で見つけたのが、狭山市で展開するさやビズになります。

そのような経緯で諸々ご相談させていただいたのですが、大宮よりは近いものの、川越から狭山はなかなか距離感が感じられるというところで、私個人としても埼玉の西地域の中でも主要都市である川越市にも、そのような市営の経営相談窓口があればいいのではないかと思ったところがあり、今回の提案に至りました。

先ほどの一件を機に、私の方でも地域事業者の支援助成ということで、川越市さんでどのような取り組みをなさっているのか簡単に調べさせていただきました。

昨年度は経営発達支援計画を策定されて、これは川越市さんと川越商工会議所さんと共同で作成された計画というところで、令和4年3月に経産省の認定を受けて昨年度から計画が動き出したと拝見しております。併せて、昨年度の実績報告なども拝見しましたけれども、かなり私個人も踏み込んだ内容だと感じており、川越市全体で事業者支援に取り組むという本気度がうかがえ、私個人も同じ地域を支える関係職員として、すごく胸が躍るというか、嬉しい気持ちになりました。

当計画以外にも、ホームページなどを拝見すると旧川越織物市場でインキュベーション施設も来年度より開設予定で、創業に関する機運も社会全体でコロナも5類に移行したところで高まっておりますので、このような施設は本当に事業者、創業予定者にとって渡り船というところで、今後も小江戸という川越市の良さを残しつつ、新しい考え方が創出できるのではないかと感じております。ぜひ定例相談なども行っているのでも、連携させていただければと考えています。

先程の経営発達支援計画の内容の中で、産業動向の景況分析の一つに、開業廃業率事業者推移というものがございまして、市のホームページにも経済センサスから抜粋して数字をいただいているのですが、令和3年と平成28年の5年後の推移で、事業所数自体は概ね横ばいなのですが、全体では従業員数は500名弱減少が見られ、その内訳を見ますと卸売業者が約5,000人弱、製造業者が1,500人弱減少しているというデータから、個人的に思ったのが、新しいネットビジネスや、EC販売等々の創業に関する障壁が低い事業者の参入は多いのですが、市内で伝統ある伝統技術を持っている製造業や、雇用を抱える事業者が、コロナの中で倒産してしまったのかなと想像しております。

先ほど申し上げたように、創業率、廃業率というところは比較的高い数値、創業率はかなり高い数値もあり、そこに向けたインキュベーション施設の開設や、ウエスタ川越へのよろずの窓口設置といった取り組みをいただいているところである一方で、もし創業に向けた整備がなされているのであれば、既存の事業者に対してもより踏み込んだ支援ができるようなサポートをする機関があれば、我々事業者としても、お客様からご相談いただいた際に、簡単にお取り次ぎしてというところで、我々金融機関や商工会議所さんも従来の業務に加えて創業支援というところで、お客様の提供する商品価値をよりブラッシュアップして市場競争力を高めていこうと注力をしているのですが、なかなか不慣れなところもありますので、我々が事業者にとってかかりつけ医としての機能を有しつつ、民間の専門的な知見を持ったアドバイザーという専門医と協力しながら、より連携したお客様の支援ができればというところで、今回のご提案とさせていただきます。

市長

経営相談について、もう少し市が力を入れて、あまり待たないでも即対応してもらえるような体制を作って欲しいというご意見であったかと思うのですが、経営相談等については、行政そのものは経営に関しては全く素人でございますので、やはり皆さんと連携を図りながらやっていかなければならない分野であるのではないかと思いますので、それも含めてしっかりと対応していきたいと考えております。

産業観光部長

相談業務などにつきましては、商工会議所さんが経営発達支援計画で一生懸命取り組んでいただいております。

また、創業の面でも、創業支援等事業計画がございまして、目標値を定めてやっております。その他、お話にもあったウエスタ川越の中にも創業支援センターや、さいたま市ですが創業ベンチャー支援センターといったものもありますので、こういった部分で連携をしております。

そういった中で、やはりさやビズさんのように、あそこに行けば一通りの相談ができるというような形、困ったときにはあそこに行けばという形のワンストップの必要性とありますが、そのようなわかりやすい窓口を検討していく必要があると思います。

そういったところで、さやビズさんと同様のものを県内の他市でも検討を始めているといった情報もありますので、そういった取り組みについて、川越市でも、一通りやることはやっている状況ではあるのですが、例えば周知の仕方やワンストップのような性格を有するといった部分において、利用しやすいという観点で少し工夫をする余地も考えられるというところで、その辺はさやビズさんの取り組みなどについてもう少し勉強させていただいて、取り入れられるものがあれば取り入れていきたいと考えているところでございます。

《小中学生に向けた金融教育の実施》

意見

今、日本人は資産を預貯金に置いている人がアメリカに比べて多く、資産運用に保守的な人が多いのではと思います。また日本は低金利でありながら、インフレが加速しているので実質的な預貯金が目減りしております。

人生100年時代、老後2千万円必要と言われていた中で、老後の資金は増える一方であり、年金だけで生活していくことは困難だと言われております。個人で資産を増やしていくことが必要不可欠な時代であり、資産運用しないことが一番のリスクだと言われております。国は来年からNISAの制度の拡充や、国民に対して資産運用をしていきたいと思いますと呼びかけをしている段階にあります。

現在、若い世代の方で金銭トラブルが増えている現状で、全国の消費生活センターに寄せられる金融トラブルが増えています。民法改正によって成人年齢を18歳に引き下げたことで、若者が自分の意思で契約することができるようになりました。クレジットカードを作ることや自分でローンを組むことができるようになりましたので、金融トラブルに巻き込まれる若者が増加しております。

そこで、高校での金融教育が必須となっております。子供のうちからお金の動きや仕組み、お金を稼ぐこと、お金を貯めること、金銭トラブルを回避することなど適切なお金の使い方を学ぶことで、お金の大切さを知ることができると共に、将来の生きる力を養うことができます。

私たち地域の金融機関として、これからの日本を担う子供たちに金融教育を行っていくことは、地域貢献の一環であり、責務ではないかと思っております。官民連携し、継続的に子供への金融教育を行う必要があると思ひ提案いたしました。

市長

私も全く同意見でございまして、消費者教育、つまり詐欺などに引っかからないような教育も含めて、お金に関するいろいろな社会の仕組みを教えることは必要なことであると思っておりますので、前向きに進めていきたいと考えております。しかし、教育委員会は教育委員会で、いろいろカリキュラムに関する時間的な制約等があつて、多くはできないということになるかもしれませんが、私の意見としては賛成でございまして。

学校教育部長

成人年齢が18歳に引き下げられたことによって、金銭トラブルが多くなっているという現状につきましては、把握しております。特に、本市では市立高等学校があり、社会人に近い年齢になっていく高校生にとって金融教育は必須なのかなと思っております。

今、カリキュラムに基づいた教育課程で教育は進んでおりますが、小中学校においても元々社会科や技術家庭科において金融関係のことや金銭管理といった、自分たちの生活において計画的に進めていくことについて、従来から学ぶような形がとられています。しかしながら、現代の社会に合わせた、今後自分の生き方としてどのように対応していくかというところについては、企業さんが最近学校の方にも入っていただいて、子供たちに金融教育をしていただくという事例がだいぶ多くなっています。

高等学校につきましても、子供たちに金融教育をしていく必要性について十分承知しているところなので、特に市立の高等学校については、単発ではなく、計画的に金融教育を進めていけるよう、検討しているところでございます。

意見

先ほど計画的に導入していくとのことですが、教育課程の中で制約があるというお話でございましたので、金融教育のパンフレットやテキストを作成し、配布するというところで、時間の制約にも縛りがなくなる提案もできるのかなと思っております。

あともう一点、既存のカリキュラムとの兼ね合いという点が大きな問題だと思っておりますが、既に金融教育に対して、何か検討というものはされてらっしゃるのかという2点、お伺いさせていただければと思っております。

学校教育部長

まず一点目のパンフレットの配布につきましては、企業さんから協力についてのチラシはいただいております。パンフレットを配ることで、時間の制約といったハードルを下げることができるということは認識しているのですが、やはり小中学生については、パンフレットを配布するのみだとなかなか学びに繋がっていないというところは感じております。ただ、一つの手段としては、非常にいい案であると思います。

また、金融教育を導入していく計画につきましては、まだ具体的なものが進んでいるところではなく、その必要性を高等学校側と共通認識しているところでありますので、今後金融機関さんとどういったところで関係していくか、学校の中でどのようなカリキュラムを組んでいくか等については、学校側とよく検討して進めていくというところです。

《古民家再生による活用》

意見

川越市には歴史的建造物が多く残っていますが、所有者の高齢化や後継者不足、維持管理に係る費用負担や相続などの問題で、今後の保存について改めて考えていく必要があると思います。そこで歴史的建造物の所有者と活用希望者のマッチングイベント、具体的にはその建物の内覧会や、意見交換の機会を創出していくことがこれから重要ではないかと考えております。

今まではコロナで人と人が直接会ったりすることが限られておりましたが、今、平時に戻りつつある中で、直に意見を交換する場というのが重要かと思えます。

建物の所有者、川越市様、建築設計関係等の民間事業者様、金融機関様、商工会議所様、観光協会様などが一堂に参加してもらって、これからの利活用の可能性を検討する場というのは非常に意義があるかと思えます。

また実際に対面する他に、その場に繋げていくためのものとして、利活用を目指す物件のデータベースなどを作成して、物件情報をスクリーニングできるような機能を備えたサイトを備えることなどは、活用希望者が時間や場所を問わずに物件情報を選択し、閲覧できるような環境に繋がると思えますので、マッチング機会の土台に繋がるのではないかと思えます。

続きまして、個人的にこんな活用事例があったらいいなと思うことを述べさせていただきます。

私個人的に、サウナが好きでして、よく川越市の鯨井にあるなぐわし公園 P i K O A という、隣に資源化センターがあってその熱を利用している施設で、温浴施設を楽しませていただいているのですが、その温浴施設や、飲食スペースで市民の方々が交流する場面をよく見ます。

なので、古民家が今後活用される事例としては、温浴施設や飲食施設を備わったような施設にすると、観光客向けではないかもしれませんが、市民の方が休日などに憩いの場として利用できて、市民の満足度向上に繋がるような場所になるのではないかと思います。

実際に私もそういう場面を多く見ているので、あくまでも個人的な意見になってしまうのですが、温浴施設と飲食施設をそういった施設に活用することも一希望として考えていただければと思います。

市長

歴史的な建造物につきまして、マッチングのイベントというのは市でも頻度は少ないですが、現在行っていると認識しております。

活用可能な歴史的建造物についてデータベースを作るというのも一つの方法であろうかと思いますけれども、データベースに載せるためには、少なくともその所有者が公開することを了解してくれなければならないという面もありますので、客観的に伝統的な建造物であるからといって、そのままデータベースに乗せるわけにはいかないという面もあろうかと思いますので、それは研究させていただきたいと思っております。

それから、そのような歴史的な建造物の活用方法の一つとして、温浴施設や飲食施設にしたらいいのではないかとのご提案がございました。特に温浴施設に使うというのは、今まで発想としてなかったもので、飲食店を開くというのは伝統的建造物を活用する方法として今までもありますし、一般的だと思いますが、確かに皆さんが集まっていろいろ世間話や情報交換をするような場としても、温浴施設が一つの場としてあると思いますので、研究をさせていただきたいと思っております。

都市計画部長

まず、マッチングイベントにつきましては、コロナ以前から市の方でも取り組んでおりまして、所有者の方と活用希望者の方のマッチングをするイベントというのをやっております。これまでに2件ほど、マッチングが成立した事例があります。データベースのお話とも関連してくるのですが、こちらも所有者の方が積極的な利活用を現状で望んでいるかということ、そうでもなかったりするというのが現状かと思っております。

やはり、立派な建造物をお持ちの所有者の方は、川越市でのいわば名家と言われる方で、自ら所有して自ら管理して責任持って次の時代に繋げていくといったお考えをお持ちだったりもしまして、他の方に活用していただくことでその保存を支えていくことは、他者の力を借りるといった感覚もお持ちなのかなと思っております。

ただ、これまでマッチングイベントなどを開催していく中で、所有者の方の利活用意向というのが高まりを見せてきていると思いますし、今まで見ず知らずの方に入っていただいて、長く保存されてきた建物というものを使っていただくことへの心配もあったようなのですが、最近はそのような古い建物をうまくリノベーションをして、まちづくり団体などが参加しながら、町の顔として存在するような好事例というものが出てきておりまして、そのようなことを目にする中で、そういった団体に相談されながら、新たな利活用方策を検討される所有者の方も出てきていると認識をしております。

そういう中で、引き続き金融機関さんや設計の専門家さん、昨年もシンポジウムの中で埼玉さん、埼玉県宅建業協会さんそれから蔵の会さんにご協力をいただいて、個別相談会というものを開催してございましたけれども、そういったイベントを引き続き実施していくことができると思っております。

最後の温浴施設ですが、私にとっても斬新なご提案だと思います。市の中でマッチングイベントを開催してきている経緯といいますのは、歴史的建造物が多数川越市にはありまして、見ず知らずの方に利活用していただくよりもできれば市に寄附したいとお考えになる所有者の方も多い中で、市としては厳しい財政状況の中でそれらを抱えてやっていくということが厳しく、ぜひ民間の事業者さんに活用していただいて、そこで収益を上げながら保存に繋げていくといったこと

を積極的に取り組んでいかななくてはいけないと思っているわけですが、この温浴施設というものでも、民間事業としてペイするのであれば、そのような施設ができることは大変素晴らしいのではないかと考えておりますし、我々としても、その可能性についてはぜひ研究をさせていただきたいと考えております。

《遊休農地の有効活用》

意見

コロナ禍の中での自家栽培の増加、また家庭菜園などの増加、後は農業従事者の減少による遊休農地の増加が挙げられる点で話し合いをさせていただきました。

内容としては2点です。1点目が農地転用と商業施設などで活用するという形と、2点目がソーラーシェアリング、営農型太陽光発電での活用方法です。支援方法としては、金融支援やSNS等で遊休農地を活用した農業をしたいと考えている人への周知を考えております。

現在農家はやりたくはないが農業はやりたいという若者もいるのではないかという意見があり、そのような人たちが実際に農業に触れることができる、入り口であるプラットフォームの構築を手がけることや、SNS等を活用して、広告案内等ができるのではないかと考えました。

市長

遊休農地の活用は、どこの自治体でも、農地を持っているところの極めて大きな課題になっておりまして、ご提案のように家庭菜園として使ってもらう、あるいは太陽光発電の場所としてパネルを置くような形で使うなど、いろいろな方法を工夫しながらやっていかなければならないと考えております。

太陽光発電に使うというのは、水田で稲を作りながら上の方にパネルを並べることができるという話は聞いているのですが、実際にこの近隣で実践しているというところは、私が知らないだけかもしれませんが、あまり聞こえてこないという部分がございますので、いずれにしましても農地を遊休にさせないという方向で進めていかなければならないと考えておりますので、ご提案のようなことについても、今後も引き続き検討かつ前向きに実現できるものはしていきたいと考えています。

産業観光部長

お話にありました、商業利用というところに関しては、農地転用のハードルが高いという部分をご存知かと思えます。また、ソーラーシェアリングに関しては、有効活用というところで、また電力もかなり高騰している中、その部分でも有効という面もありますので、これから研究していく必要があるかと思えます。

農業に興味がある方が農業に触れるという中での有効活用として、市民農園等があるかと思えます。川越市の実態で言いますと、農業従事者については減少しており、令和2年の基幹的農業従事者が1,743人というのは、10年間で約1,200人減少している状況があります。

また、経営耕地面積も令和2年は1,976haで、10年間で717ha減少しております。しかし、遊休農地については、農業委員会の調査において平成30年度をピークに減少しているという状況があります。これはおそらく、地域の農業委員さんや農家の方々が、遊休地化しないように、定期的に農地を耕していただくなど取り組んでいただいているといった状況があるかと思えます。

しかしながら、遊休地化してないのでイコール農作物を作っているのかというと、定期的に耕しているだけといったような状況もあるかと思えますので、一概には言えないかと思えます。

また、市民農園については、川越市伊佐沼のところに、農業ふれあいセンターがリニューアルしたグリーンツーリズム拠点に、市民農園が540区画ございます。その他にもJAさんなどが受付をしている民間の市民農園が447ヶ所、区画でいうと971区画ございます。皆さん非常に関心が高くて、一生懸命やっております。これも水場があることや、車が停めることができるなど、いろいろな立地の条件等があるかと思うのですが、このような部分は担い手不足の中での有効活用策として、有効であると思っておりますので、こちらについても相談があればどんどん推進していきたいと考えております。

宮本副市長

農業につきましては、市としても農業の活性化などに取り組んではいるのですが、耕しているだけ、遊休にしないようにしているだけといったところもあるのも事実ですし、一方、本格的にハウス栽培や収益率の高い作物を作るなどやっているかという、なかなかやってはいません。

お話にも出てきましたが、農業には興味があるが、農家にはなりたくないというのは、おっしゃる通りそういう傾向があるようですね。

そうなると、農業を経験してもらおうということが大事で、それにはグリーンツーリズムなどがあります。また、農地法がここで変わって土地の売買もしやすくなってきていますので、開設もしやすくなっているのも事実です。

ただ、それで実際に経営できる農家が増えるかというとなかなか増えませんので、やはり法人化なども支援していかなくてははいけません。今農家の方が、先ほどの古民家のようにマッチングなどで土地を斡旋してやっていこうとしているのですが、農家の方が、例えば2 kmも3 kmも先の農地を耕しに行くのはなかなか難しく、マッチングでは解決できない部分があって、先ほど言った法人化をして、その地区の方が耕作をするということもできればいいのかなと。更には、六次産業まで繋げていくといいのかなという気がします。

市としては、そのような土地利用をどうするかという話を全体的に考えて、その中で、遊休農地でこれからどうしていくかという点について、産業用地としての活用などを考えていかななくてはならない一方で、遊休農地をどう活用していくかということでは、法人化や農業としての生産力を上げるための努力をしていくということで、法人化などを進める必要があると考えて、いくつかの政策を連携して進めていく必要があると感じているところです。

市長

本日は本当に貴重な、有意義なご意見等を賜りまして本当にありがとうございます。

若い社会人の方との意見交換、タウンミーティングは初めてでございまして、皆様方のように若い方が、地域のこと、あるいは行政のことに関心を持っていただき、意見を持っていただくということは大変ありがたいことであると思っております。

ぜひこれからも、いろいろな思いつきでも結構ですから、こういうのがあったらいいのではないのか、こういうふうにしたらいいのではというような、そういうご意見、ご提言がございましたら、いろんな形で行政の方に伝えていただければありがたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。

本日は本当にありがとうございました。